

令和7年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【中学校】

1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率（理科は IRT スコア）比較

| | 国 語 | 数 学 | 理 科 |
|-----|------|------|------|
| 鴻巣市 | 55 | 48 | 49.8 |
| 埼玉県 | 55 | 50 | 50.2 |
| 全 国 | 54.3 | 48.3 | 50.3 |

2 中学校各教科の領域・区分等について

| | |
|----|--|
| 国語 | 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・県平均を下回っています。 「話すこと・聞くこと」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。 「書くこと」は、全国・県平均を上回っています。 「読むこと」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。 |
| 数学 | 「数と式」は、全国・県平均を下回っています。 「図形」は、全国・県平均を上回っています。 「関数」は、全国・県平均を下回っています。 「データの活用」は、全国・県平均を上回っています。 |
| 理科 | |

3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ生徒の割合

| 質問事項 | 鴻巣市 | 埼玉県 | (差) | 全 国 | (差) |
|---|------|------|------|------|------|
| 将来の夢や目標を持っていますか | 68.6 | 69.9 | -1.3 | 67.5 | +0.9 |
| 学校に行くのは楽しいと思いますか | 90.6 | 87.8 | +2.8 | 86.1 | +4.5 |
| 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか | 81.5 | 81.7 | -0.2 | 79.2 | +1.3 |
| 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか | 77.1 | 75.8 | +1.3 | 75.3 | +1.8 |
| 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか | 82.3 | 82.7 | -0.4 | 79.3 | +3 |
| 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか | 89.5 | 88 | +1.5 | 84.7 | +4.8 |
| 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか | 95.5 | 94.4 | +1.1 | 91.5 | +4 |
| 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 89.1 | 89.5 | -0.4 | 88.3 | +0.8 |
| 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 76.1 | 74.3 | +1.8 | 75.2 | +0.9 |

4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

【鴻巣市学習指導の重点】

- 子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法等の柔軟な設定等をしたり、必要に応じて、重点的な指導を行ったりするなど、学習内容を確実に定着させる授業を展開していきます。
- 基盤となる資質・能力等を土台として、子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題等に取り組む機会を設定することで、児童生徒自らが学びを選択・決定・調整しながら進めていくことができる授業を展開していきます。
- 学習課題について自分の考えをもち、ペアやグループ、異学年、地域の方など多様な他者と協働しながら、よりよい学びを生み出すことができる授業を展開していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜国語＞

○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

＜重点：事象や行為、心情を表す語句について理解する＞

- ・事象や行為、心情を表す語句について理解するためには、動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考えることが重要です。例えば、本などから見付けた事象や行為、心情を表す語句を取り上げ、辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を考える学習活動が考えられます。その際、他の語句と比較しながらその語句が文章の中で果たしている役割を考えるなどして、語句の意味や使い方について理解を深めることができるよう指導していきます。

○〔話すこと・聞くこと〕

＜重点：資料や機器を用いた話し方の工夫を考える＞

- ・話し方の工夫をする際には、目的や状況、相手に応じて、話し手の考えが正確に伝わり、聞き手の理解をより深めるようにすることが重要です。スピーチにおける資料や機器の用い方に着目し、どのような資料を示して、どのように話し方の工夫がされているかを確認することが考えられます。どのような話し方の工夫がされているかを捉える際には、話の内容、目的や状況、相手に応じて様々な資料や機器を用いた話し方があることを理解した上で、その話し方が聞き手にとってどのような効果があるのかについて考えるよう指導していきます。

○〔書くこと〕

＜重点：自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く＞

- ・自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要です。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導していきます。

○〔読むこと〕

＜重点：文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える＞

- ・文学的な文章においては、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の行動や心情などの描写を基にして、登場人物の人物像や相互関係などがどのように設定されているかを考えながら読むことができるように指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜数学＞

○〔数と式〕

＜重点：数量やその関係に着目して文字を用いた式に表したり、式の意味を読み取ったりすることができるようにする＞

- ・事象における数量やその関係に着目して文字を用いて考察する場面を設定することを通して、数量を文字を用いた式に表したり、式の意味を読み取ったりすることができるようにすることが大切です。数量やその関係に着目して文字を用いた式に表したり、式の意味を読み取ったりすることができるようにするとともに、文字を用いることの必要性や意味を理解し、そのよさを実感できるように指導していきます。

○ [図形]

＜重点：多角形の角についての性質を考察し、説明できるようにする＞

- どんな正多角形においても、一つの外角の大きさは、多角形の外角の和である 360° を頂点の数で割ることによって求められることを理解できるようにすることが大切です。また、正多角形の頂点の数を決めれば、一つの外角の大きさがただ一つ決まることを基に、正多角形の外角の大きさと正多角形の頂点の数の関係がどのような関数であるかを話し合う場面を設定し、その関数が反比例であることを見いだす活動を取り入れるなどして、指導していきます。

○ [関数]

＜重点：与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるようにする＞

- 表やグラフと具体的な事象を対応させ、表やグラフから読み取ったことが具体的な事象では何を表しているかを捉える活動を取り入れることが考えられます。その際、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取れるように指導していきます。

○ [データの活用]

＜重点：相対度数の意味を理解できるようにする＞

- ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】 <理科>

○ [「エネルギー」を柱とする領域]

＜重点：電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係を関連付けて捉えることができるようにする＞

- 電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係について、授業で行われる観察、実験等と関連付けて捉えることが大切です。指導に当たっては、回路全体の抵抗の求め方や熱量の求め方を習得することのみを目的とするのではなく、これまで授業で行われた観察、実験を想起したり、これまで学習した知識を活用したりして、発生する熱量と直列回路・並列回路における合成抵抗とを関連付けて概念的な理解を深める学習場面を設定するなどして、指導していきます。

○ [「粒子」を柱とする領域]

＜重点：化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする＞

- 化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、自然の事物・現象を質的・実体的な視点で捉えることは大切です。指導に当たっては、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えるように指導していきます。

○ [「生命」を柱とする領域]

＜重点：与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるようにする＞

- 生命活動を維持するために、消化器官で食物が物理的及び化学的に消化され、栄養分が吸収される仕組みを理解することは大切です。指導に当たっては、消化の際に物質が分解されることを、物質が物理的に小さくなることだけではなく、物質が化学的に消化される分解と結び付けて考える学習場面を設定するなどして、指導していきます。

○ [「地球」を柱とする領域]

＜重点：科学的な根拠に基づいて大地の変化について分析・解釈できるようにする＞

- 「地球」を柱とする領域では、時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、地層の広がり方を推定したりできるようにすることが大切です。指導に当たっては、大地の変化に関する知識及び技能と過去に起きたと考えられる事象を関連付けて考察する学習場面を設定するなどして、指導していきます。